淑徳大学アーカイブズ・ニュース

vol.23

2021.07.07

目　次

吉田久一展示室・吉田文庫…… 1
学祖に迫る　その1　仲村優一先生からみた学祖 …… 2
アーカイブズ所蔵資料紹介　吉田久一先生旧蔵資料 …… 2
書籍の紹介　学祖生誕130年記念出版／アーカイブズ叢書・10 …… 3
活動紹介　淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会／見学者の声／展示のご案内 …… 3
未来へつなぐ連続インタビュー　第１回〈川眞田和義さん〉 …… 4
アーカイブズ力(りょく)をつける　その1 …… 6
アーカイブズ事務室だより／ご協力のお願い／編集後記 …… 8

アーカイブズ収蔵庫内の吉田文庫

常設展示　吉田久一展

SHUKUTOKU

学祖に迫る　その１

仲村優一先生からみた学祖

仲村優一（なかむらゆういち）先生（1921～2015、日本社会事業大学名誉教授）は、日本社会事業大学１期生で、同大学学長もつとめ、退職後は淑徳大学に赴任され、大学院の設置にも尽力されました。長谷川良信先生を直接知るお一人です。

学祖長谷川良信先生

仲村先生の講演『長谷川良信の思想と生涯』が一年生向けに行われました（1997.4.24.）。その録音テープから長谷川良信観を抽出します。

仲村先生は、良信先生の『社会事業とは何ぞや』をもとに、

> 民間サイドの活動が中心の長谷川先生は、地域に根差した総合性、つまり隣保事業、社会事業を地域で展開することに尽力された先生である。

と端的に位置づけます。「役所のビジョンや政策・用語も、徹底した民間サイドの立場で使用された」とも言っておられます。

仲村先生は言葉の使用の変化について、「日本という国は、新しい言葉を使わないで、古い言葉で事（こと）する傾向がある」ことも指摘します。この点は、「社会事業」という用語が、戦前に社会主義という言葉と結びついて使用できなくなった時に、厚生という言葉が選ばれたことをあげておられます。

長谷川良信先生が執筆された『社会事業とは何ぞや』のサイン入りの著書は、淑水記念館（1 号館）4 階に展示されています。

表紙の資料（写真）

アーカイブズ所蔵資料紹介

吉田久一先生旧蔵資料

吉田久一先生（1915-2005、日本社会事業大学名誉教授）は、長谷川良信先生の教え子です。吉田先生の原稿や手紙、書籍等の資料群が淑徳大学に寄贈されています。

このうち、資料は淑徳大学アーカイブズへ奥様吉田すみ様（淑徳女子農芸専門学校一期生）より、2011 年に 365 点を一括でご寄贈いただいています（受入番号 2011-003）。吉田久一先生が探求された近代仏教史と社会事業史、仏教社会福祉史の分野の研究を進めるうえでも重要な資料群です。

また、仏教福祉関係を中心とした図書は、資料に先駆けて 1990 年代中頃に淑徳大学に寄贈されました。当時、千葉キャンパスから職員 2 名がトラックで吉田久一先生のお宅へ受領に伺いました。その折、吉田先生から「本を手放すのは、娘を嫁にやるような気持ちだ」と声をかけられたそうです（長澤正志千葉キャンパス事務局長より聞き取り）。このときの図書は、現在アーカイブズの収蔵庫で管理されていますが、淑徳大学図書館 OPAC に登録されていますので検索・閲覧が可能です。

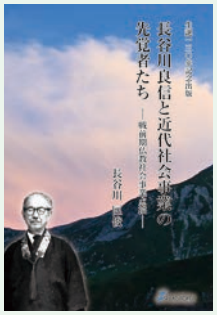
今後は、さらに吉田先生の関連資料の集積が期待されます。

晩年の吉田久一先生（1989 年）

書籍の紹介

学祖生誕130年記念出版

アーカイブズ所長の長谷川匡俊先生は、「学祖・長谷川良信と社会事業の先覚者たち」を『淑徳大学アーカイブズ・ニュース』に連載されてきました。12回の連載が終わり、書籍になりました。



『長谷川良信と近代社会事業の先覚者たち―戦前期仏教社会事業点描―』です。是非ご一読いただきますようお薦めします。アーカイブズ事務室へお問い合わせください。

書籍の紹介

アーカイブズ叢書・10

『浄土宗関東十八檀林大念寺日鑑　四』が刊行されています（2021.3.10、254 頁、A5判）。

大念寺は茨城県稲敷市に所在し、淑徳大学に縁のある大巌寺と同じ浄土宗関東十八檀林の寺院で、江戸時代には僧侶たちが学んだ寺院です。日鑑はお寺の日記で、地域と寺院のつながりなどが詳しくわかる資料です。

活動紹介

淑徳大学アーカイブズ古文書に親しむ会

地域との連携を図り地元の人々との交流を深める目的で、淑徳大学アーカイブズ開設翌年2011年８月に設立されました。コロナ流行で2020年２月（第168回）から対面での活動は中断し、事務室とメールや郵便を使って叢書の翻刻作業を継続しています。

見学者の声

今回は、学生の皆さんの感想を紹介します

改めて長谷川先生の言葉がささり、私も将来は福祉に関わり、支援が必要な方や悩みを抱えている方の支えになり、その方たちと生きていけるようにしたい（N・S）。／長谷川先生がどのような気持ちでさまざまな事を成し遂げ、そして大学を建てたのか、学びたいと思った（G・T）。／展示室があるのに驚き、色々知りたいと思いました（A・O）。／1 号館で大学と社会福祉の原点を知ることができて良かった（M・H）。／写真はストレートに伝えてくるものがあった（K・T）。／長谷川先生は若くても人のために自分の時間を使い、解決・改善に動いて結果を残していることに衝撃を受けました（K・O）。／卒業までに、また 1 号館を訪れて価値を改めて確認できると良いなと思った（M・S）。

＊アーカイブズ事務室へご連絡いただければ、お時間に合わせ、展示の解説をいたします。

展示のご案内

2021 年度特別展示

特別展「パラスポーツの活力―その歴史と未来へ向けて」はHP から動画配信しております。そのほか、動画を順次アップしておりますので HP をご覧ください。

未来へつなぐ連続インタビュー

第１回

川眞田　和義さん

同席　川眞田喜代子さん

第 1 回は、2021年5月22日に千葉キャンパス 1 号館 2 階同窓会サロンに一期生の川眞田和義さんをお迎えし、同じく一期生で奥様の喜代子先生（淑徳大学客員教授）にも同席いただきお話を伺いました。

当時、同窓会のサロンは教室でした。サロンからみえる大巌寺の方角には料理学校があり、その隣りの校舎 1 階が寮生の食堂でした。

あらかじめ寮生活のことを中心にお話を聞かせていただくことを和義さんにお願いしておりましたので、このような感じで教えていただきながらインタビューが進んでいきます。

川眞田和義さん：寮は、1 階に 6 畳間が 4 部屋でした。6畳にふたり。それで、私はその部屋には入れないで、2階の 18 畳か 20 畳くらいのところにひとりで住んでたんだよね…。

大：2階は大部屋だったんですね。

川：そうそう…間仕切りされてなかったから…。

大：そこにおひとり？

川：うん。俺は1年生の時は、大きな部屋にひとりだったから、押し入れの中に寝てたんだよね…。最初1年近くひとりでしたね…。押し入れに襖もなんも入ってないんだから…。そうしたら、よくみんな泊まりにきてたよ、1年生が…。

～～～～～

川：寮の前はプールなんですよ。

大：（写真をお見せして）海雲プールですか？

喜代子さん：そうです。ただプールって呼んでた。海雲プールって呼んでたんだ…。シャワー室とかなかったから、頭乾かすのに男子寮に行って、ドライヤー借りたり、お寺に行って、長谷川先生のドライヤーみたいなものを使って乾かさせてもらったのは、通学生は記憶にあります。

～～～～～

川：そういえば、風呂どこにあったのかな…。

大：それもお聞きしたかったです。

喜：お風呂は、白旗まで行ってたじゃない。

大：その頃は白旗までいかれたのですね？

喜：お風呂のなかった寮も珍しいですよね。

川：見切り発車だったんだよね、すべてが。

大：走りながらいろんなものが揃っていく…。

喜：そうですね。

～～～～～

喜：30 歳になる前の卒業して初めての同窓会は彼が幹事で、長谷川匡俊先生たちと兄弟っぽい感覚で育ったから、お寺の庫裏にみんな子連れで布団敷いて泊まりました。自分たちのお寺みたいな意識があったので。

川：俺はそのころ警視庁にいたから…。その頃はもうほとんど連絡取れたんだけど…。

大：和義さんがみなさんの連絡をつないで…、

喜：その同窓会の時って大学でお世話になった食堂のおばさんとかも集まったよね。寮だけの同窓会と、1期生の同窓会とをやったよね。

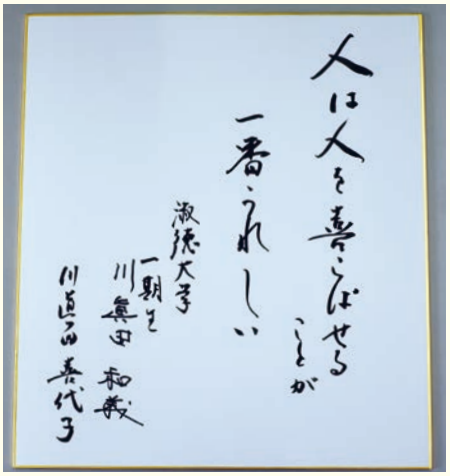
～～～～～

終盤には、現在の話になり、川眞田ゼミの北海道合宿の話を喜代子先生のご協力でお聞かせいただきました。「俺は運転手だから」と和義さんは何もおっしゃらなかったのですが、ゼミ生が「パパさんへ」と手作りで作ったお礼のアルバムが物語ります。「4泊5日ありがとう

ございました。パパさんのお陰で心が楽にもなりましたし、視野を広げることもできました。そして自分たちのために毎日長い運転をしていただいたことも、とても感謝しています。また機会があれば、よろしくお願いします」(川口達也さん)。さりげなく、学生たちの人生を支える役をつとめています。

和義さんの座右の銘は、「為(な)せば成る。為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」(上杉鷹山(うえすぎようざん)の言葉より)。

2時間近くのインタビューの一部を紹介しました。話題は多岐にわたり、全ては紹介しきれませんけれど、多くの寮生がやっていたアルバイトのこと(当時は土木工事のアルバイトが多かったのです)、和義さんたちがつくった野球部のこと、入学式後5月くらいまで教室での席取りがあったこと、加えて寮監の現理事長長谷川匡俊先生とお寺の庫裏で過ごした日々のこと等々でした。在学中に和義さんが学祖長谷川良信先生から直接言われたこと(人の嫌がることは率先してやるんだよ…)、学祖が亡くなられた時、夏休み中で実家の北海道から、東京へ戻ってきたことも話に出てきました。



インタビュー記念に色紙をお書きいただきました。

～インタビューを終えて～

大学・学園の組織の資料は、教職員のみなさまのご協力で構築がなされつつありますが、一方で、わたくしたちの日常生活もそうですが、大学の主人公である学生たちの日常の活動記録は、意識しないと見過ごされ、将来に伝わりません。このようなことから、卒業生の在学時の日常のお話をお聞きしておきたい、ということでインタビューが始まりました。

和義さんが最初の候補に挙がった時、開学当時に学生だった方はどんなに素敵にお年を召されたのだろう、お会いしたいという気持ちが一番でした。当日の和義さんの話は、ご自身の人生そのものをお伝えいただいたといえます。お忙しい中、神業のように時間を整えてご協力いただいたお２人に感謝申し上げます。

コロナの流行で準備が遅れておりましたが、卒業生の皆様からお教えいただきご協力いただきながら、インタビューを企画して参ります。

（きき手 大嶌聖子　協力 同窓会事務局）

アーカイブズ力（りょく）をつける　その１

清水　邦俊

「アーカイブズ力をつける」というタイトルで寄稿してほしいと、担当者から依頼があり、私が書くことによってアーカイブズという言葉が少しでも世の中に広まり、理解を得られたらと思い、今回引き受けることにしました。

そもそも「アーカイブズ力」という初めて耳にする言葉について、どのようものがアーカイブズ力なのか、私自身考えたことがありませんでした。ただ漠然と、一つの力だけではなく総合的な力の結集を意味するものであると考えていました。

半ば考えに行き詰まった時、気分転換に定額制動画配信サービスで、TBS テレビで放送していたドラマ「陸王」を見ていました。「陸王」は、老舗の足袋屋の4代目社長がマラソン足袋の開発から完成に至るまでの紆余曲折を描いたドラマです。

このコラムを読んでいる皆さんの中にも放送を見ていた方はおられると思います。ドラマの設定として、マラソン足袋の開発は先代社長もチャレンジし、失敗した事業でした。冒頭に、その時の試作品が倉庫の奥の棚から出てくるというシーンがあります。

私はこのシーンを見た時、過去のアイディアや企画を再び現代に活かす、これはアーカイブズにもいえる活用法だと思いました。同様に、アーカイブズに関する様々なことをこの欄で書いていくことにより、結果的にアーカイブズ力という言葉全体の説明にもなっていくのではないかと少し光が見えたような気がしました。

＊　＊　＊　＊

さて、皆さんはアーカイブズ（archives）って何だと思いますか。

英語の辞書では、
①文字や映像等を記録した資料そのもの
②これら記録資料を保存する施設
という２つの意味があります。

近年は、日本でもただアーカイブズというとどちらを指しているのかわからないため、①をアーカイブズ資料、②をアーカイブズ機関（施設）という言い方をすることもあります。

このほかに似たような言葉では、インターネットの普及によって、ブログ等の過去の記事や動画・映像を保管しておくアーカイブという用語があります。これは、消したくないデータを記憶装置に保存しておく機能を指します。アーカイブはメールアプリにもあるので、上記②のデジタルデータを保存する機能という解釈になるのではないでしょうか。

さらには、NHK がこれまで放送した映像を保存しているNHKアーカイブスといった言葉は、皆さんも耳にしたことがあると思います。これは番組名としても使用していますが、②に該当します。施設は埼玉県川口市にあります。ちなみに、アーカイブスという言葉は、発音の話にもなりますが、NHK の造語です。

＊　＊　＊　＊

そして、私が考える３つめの意味は、「資料を歴史資料にする」ということです。

紙や写真、CD 等のさまざまな記録媒体を整理し、それらを利活用できるようにすることで、資料から歴史資料に変わるという意味です。詳しく説明しますと、書類や帳簿・手紙・写真・映像といった資料は、個人や団体の何らかの目的・活動・プロジェクトのもとで作成さ

れます。これらの資料には、人々の日常やさまざまな出来事、活動の計画・経緯・結果等が記されています。

例を挙げますと、活動計画書や経過・結果報告書、プロジェクトで使用するために購入した備品の領収書、個人の手紙や日記、契約書など様々な資料があります。プロジェクトや活動が進行している時は、頻繁に利用されていた資料も、その後、活動計画が終了したら利用頻度も少なくなり、やがては利用されなくなります。

＊ ＊ ＊ ＊

しかし、利用されなくなったといっても、それは現用としての（現役で）利用がされなくなったという意味で、資料自体の価値がなくなったわけではありません。資料の価値を今後に活かすために、整理して利活用できるようにした上で、保存し続けるわけです。

サンパウロでの資料整理の様子

これにより、資料は当時の活動を記した歴史資料となり、さらには活動に関わった人々の行動が、記録として残されたともいえます。いいかえれば、当時の人々の生きた証が歴史資料として残ることになります。

つまり、「資料を歴史資料にする」という意味は、利用されなくなった資料を整理して利活用できるようにし、保存し続ける体制にするまでの流れを意味します。これが私が考えるアーカイブズの3つめの意味になります。

現用資料が歴史資料となり（アーカイブズ資料）、そのセカンドライフを送る場所がアーカイブズ機関ということになります。

では、どの瞬間に資料が歴史資料になるのでしょうか。これには実は明確な境目があります。

これについては、次回お話ししたいと思います。

～～～～～～～～～～～

自己紹介

認証アーキビスト。國學院大学卒業後、千葉県文書館や高知県の土佐山内家宝物資料館（現、高知城歴史博物館）にて古文書の整理に従事する。2018 年から JICA 日系社会シニア協力隊に参画し、ブラジルのサンパウロ市にあるサンパウロ人文科学研究所にて日本人移住者や日系人が残した個人資料の整理に携わる。その他、一般企業の資料の整理やコンサルティングも行っている。

～～～～～～～～～～～

清水邦俊さんは、淑徳大学アーカイブズの叢書刊行のメンバーの一人です。専門性を生かし、アーカイブズを身近に、そしてアーカイブズを身近に置いていただくと、こんなに良いことがある！ということを「アーカイブズ力をつける」と題して連載でお書きいただきます。

アーカイブズ事務室だより

事務室の活動を記録として残します

（2020 年 9 月～2021 年 3 月）

〇資料寄贈： 細谷昭夫氏・湯浅道夫氏・大友昌子氏・千葉キャンパスボランティアセンター・武田逸朗氏・アドミッション千葉オフィス・佐藤俊一氏・松薗祐子氏・日本女子大学社会福祉学科・同窓会事務局

〇聞き取りの協力： 大藪やす子氏・菅谷厚子氏・長澤正志氏・西塚洋氏・三上浩氏・長谷川匡俊氏

〇見学者： コミュニティ研究ⅢF 学生 11 名＆野田陽子・伊藤潤平両先生（10/2）、期中監査担当職員（11/9）、佐藤千鶴子氏・畑公子氏・梅原芳江氏（11/26）

～展示室でのご記帳にご協力お願いします。

〇視察・見学先： 流山市立博物館・国立歴史民俗博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館

〇活動支援： 大巌寺宝物殿展示・開館支援（9/8・26, 10/10・20, 11/7・24, 12/8・19, 1/9・19, 2/16・27, 3/9・20）・大学事務部へ東日本大震災関連写真提供（11/26）・アドミッションセンターへ資料提供（12/21）・酒々井町受託事業資料整理に同行（2/24）・千葉キャンパス総務部へ写真提供（3/1）

〇学会： 社会事業史学会 50 周年記念大会 WG 会議出席（9/30）・アーカイブズ学会大会参加（11/8） 以上

〈ご協力のお願い〉

＊地域福祉にかかわる資料などを寄贈される場合は、アーカイブズ事務室へご相談ください。

＊コロナ流行に関するメール配信は、各大学キャンパスより、情報を提供いただいております。引き続き、ご協力をお願いいたします。

＊各部門・部署で刊行された冊子などの寄贈にご協力いただいております。毎年度のことですが、不明な点がございましたらアーカイブズ事務室へお問い合わせください。

＊廃棄の状況が生じた書類等については、アーカイブズ事務室へお知らせください。

〈編集後記〉

当然のことながら、アーカイブズの業務は、この事務室単体では成り立ちえません。各部門・部署の教職員の皆さま、資料を寄贈いただく多くの方たちのご理解とご協力が続いているからこそ、アーカイブズという活動が将来へ続いていきます。

そして、この活動の真価は、未来の学園・大学を担っているその時代の人たちのもとで発揮されることになります。つまり、アーカイブズという営みは、将来に向けての日常的な活動を示しています。

アーカイブズを育て、身近に置いてもらえるように、このニュースを発信していこう、ということを基本方針に据え、紙面を構成いたしました。ご利用いただく読者の皆様にアーカイブズって何？という疑問にお答えしながら、ニュースの紙面を準備して参ります。ご意見・ご感想もお寄せいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。 （大嶌聖子）

写真協力 根本勝広氏

淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701 千葉市中央区大巌寺町 200
℡ 043(265)7526＜直通＞
✉ｱﾄﾞﾚｽ archives@soc.shukutoku.ac.jp
HP https://www.shukutoku.ac.jp/shisetsu/archives/